

真庭市×SDGs

日本の中山間地域の永続的な発展モデルを目指す
-SDGs未来都市真庭-



真庭市の概要

人口：45,162人（令和元年8月1日現在）

世帯数：17,700世帯

面積：約828km²（県下1位）

うち79.2%が山林面積

主要産業：林業、農業、製造業など

SDGs未来都市：2018年度選定

「真庭のシシ」作者：淀川テクニック

ごみの減量化・再資源化を行う持続可能なごみ処理のシンボル。真庭市から出たごみを材料に制作。モチーフは里山の生き物「イノシシ」後ろにそびえるのは国指定重要文化財である旧遷喬尋常小学校（明治40年建築）



真庭市における自治体SDGsモデル事業

SDGsによる地方創生の取組が政府に認められ、自治体SDGsモデル事業に選定されました。今までの取組を更に発展させて自律的好循環を目指します。

木を使い切る

今まで廃棄物として扱われていた未利用木材などの「木質バイオマス資源」を活用して再生可能エネルギーを生み出すとともに、新たな雇用も創出



2015年から順調に稼働している真庭バイオマス発電所

エネルギー事業として大きな利益を上げ、山元、製材所等林業・製材業者へ利益還元



地域の未利用材等が集まる真庭バイオマス集積基地



実証事業でできたバイオ液肥は無料配布



メタン発酵実証プラント

メタン発酵から生じるもう一つの副産物であるメタンガスを活用して、発電も実施

ゴミの減量化を図り廃棄物を循環利用するために、生ごみ・し尿・浄化槽汚泥をメタン発酵により肥料「バイオ液肥」に変換する実証事業を実施

ごみを再び資源に

未来を担う人づくり

教育という分野は未来に向けて大きな可能性を持っている。持続可能な社会づくりの担い手を育む取り組み「ESD」を推進

認定こども園と放課後児童クラブが併設された、切れ目のない教育環境の整備



真庭産材をふんだんに活用した小学校



市長と伊勢谷友介氏との対談 SDGs未来社フォーラム('19年3月)



国指定重要文化財(旧遷喬尋常小学校)の備品づくりワークショップ



自転車のまちづくり (真庭市各地で散走イベント実施)

散走(散歩するようにゆっくりと歴史や文化、食に触れる楽しみ方)に取り組むとともに、大学等との連携により、健康づくりにも活用

持続可能なまちづくりのため、地域に眠る資源を観光などに活用する「観光地域づくり」を進めて、真庭市の魅力を引き出す。

行ってみたくなる 住んでみたくなるまちづくり



SDGsを更に推進し、地方創生を実現

SDGsによる地方創生の取組を通じて人口減少や地域経済の衰退といった負の連鎖を断ち切り、日本の中山間地域の持続的発展に向けて地域分散モデルを目指します。

▶「回る経済」の確立

地域の資源を活用して、市外に流出していたお金が市内で循環する仕組みをつくっていきます。



◎ 蒜山⇄晴海プロジェクト

隈研吾事務所がデザインし真庭産木材によるCLT（直交集成材）を使ったパビリオンを東京オリンピック・パラリンピックに合わせ東京都中央区晴海に建設し、運用後は真庭市蒜山へ移築
観光、芸術及び文化の発信拠点として活用する計画
（蒜山：大山隠岐国立公園の一部であり、なだらかな高原観光地）



◎ マイクロ水力発電の推進

地域用水を活用して、地域の方々が維持管理し、売電収入の一部は地域の伝統文化活動の資金として地域活性化

▶流域での連携交流

真庭市は一級河川旭川の源流域に位置しています。下流の自治体等とも連携して環境保全を進めます。



◎ 真庭里海米のブランド化

瀬戸内海の牡蠣殻を土壌改良剤として活用して作ったお米「真庭里海米」のブランド化を推進



◎ 河川の生き物調査

旭川流域に住む子供たちが一緒になって河川の生き物調査を実施。川への関心を高めて、お互いの環境保全の意識を向上



◎ 生き物豊かな森づくり

地域住民と下流域の住民など様々な関係者とともに、森づくりを実施。ササヤブだった所が光あふれる場所となり、生き物豊かな森へと変身

▶SDGs未来集落の形成

伝統文化と地域の資源、現代の技術を融合して、持続可能な集落の形成を目指していきます。



◎ 山焼きと草原保全

地元住民やボランティア、専門家とともに、山焼きを実施することで草原の保全と生物多様性の保全に貢献
山焼きのツアー化を検討中



◎ ススキを茅として活用

持続的な保全の仕組みを構築するために、草原資源であるススキを有効活用し茅の生産をすることで経済活動と融合



◎ 茅を屋根材として活用

地域間の資源を組み合わせ、茅葺き屋根を有する文化財の修復を行い地域の価値を上げるとともに電動自動車も組み合わせ、観光地化を促進することを検討中

▶国際的視野を持つ人材育成

物事を広くとらえて、自分のためだけでなく、世界のために何ができるのか考える力を育みます。



◎ クールチョイスの推進

地球温暖化対策のための国民運動「COOL CHOICE」を普及啓発し、地球環境の意識を高めて一人一人ができること、クールチョイス（賢い選択）を促進し脱炭素社会を形成



◎ JICAとの連携

JICA債への出資などを行うとともに、JICA職員や元青年海外協力隊などによる国際協力の講演等を実施



◎ 岡山大学との連携

岡山大学が受け入れている米国の大学・大学院生が真庭を視察し、地元高校生と一緒に町並みを巡り、意見交換をするなどして交流

▶官民連携の推進

○真庭市SDGsパートナーシップ制度

真庭市ではパートナーシップ制度を構築し、民間企業とSDGsパートナーとして連携し、SDGsの推進を連携して実施していきます。

【たとえば・・・】

○循環型肥料「バイオ液肥」で育てた野菜・米を食べて資源循環の輪に参加

バイオ液肥を使い作った作物は「液肥野菜」として市内で好評を得ており、本格プラントの建設も計画しています。真庭市の循環型農業の象徴である「液肥野菜」を更に普及するために企業のチカラの活用

○G20にも「出張」展示した「真庭のシシ」を使って環境問題を一緒にPR

「真庭のシシ」は瀬戸内国際芸術祭2019や2019年6月G20環境相会合にも「出張」し、大きな反響を呼んでいます。「真庭のシシ」のサポーター（仮称）として、「ごみ」減量・環境問題を普及啓発

【イメージ】



「真庭のシシ」展示サポーター（仮称）



世界が求める課題解決のシンボルとして活用

企業の社屋や店舗等で展示

ゴミ減量化
脱プラスチック
脱レジ袋

環境問題への取組の話題づくり



世界へ向けたPR

★企業版ふるさと納税について

地方自治体が行う取組に対して、企業が寄付を行った場合に、法人関係税の優遇が受けられる制度

R2年度より軽減効果が3倍に



寄附額の下限は10万円

